

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	延岡市立東海中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	6	6	1	18	34
生徒数	194	219	232	1	645	

実践研究の概要

1 研究主題

学ぶ習慣を身につけ、確かな学力を育む指導方法の工夫改善
 ~ 個に応じた学習指導の充実をめざして ~

2 内容与方法

(1)実施学年・教科 (選択した理由を付すこと)

全学年・全教科
 全教科による共通理解、共通実践を前提に、教科指導の工夫・改善に取り組むことが重要であると考えたため。
 2年生・3年生 英語, 1年生・2年生 数学

(2)年次計画

平成
14
年
度

テーマ
 学ぶ習慣を身につけ、確かな学力を育む指導方法の工夫改善
 ~ 個に応じた学習指導の充実をめざして ~

仮説

- 1 総合的な学習の時間の授業において、個に応じた指導を進めることにより、生徒自らが課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断し、よりよく問題を解決する力が身につけていくであろう。
- 2 学習課題や宅習、資格取得等などを通して、生徒たちが学ぶ楽しさや喜びを実感できる機会と評価の在り方を確立していけば、学び方を学び、ものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的に取り組むであろう。
- 3 朝の読書や宅習、宿題などを通して、学びの機会の充実を図っていけば、家庭学習などの基本的な学習習慣が確立し、学ぶ習慣が身につけていくであろう。

研究内容・方法

「課題設定」における支援と評価の研究

- ・ 生徒の発達段階に応じた課題の持たせ方を設定した上で、それぞれの段階で必要な力を身に付けさせるための学習活動の整理を行い、評価規準表を作成する。また、課題設定の段階で必要な力を身に付けるための具体的な学習活動に対する評価規準を作成する。

「課題解決」における支援と評価の研究

- ・ 生徒一人一人の活動が見えにくい課題解決の学習段階において、課題を解決するための学習技能(スキル)の向上と生徒が記入したワークシートや自己評価に教師の評価を書き込み、ポートフォリオの充実を図る。

「まとめ・発表」における支援と評価の研究

- ・ まとめ・発表の段階で必要な力を考え，身に付けさせたい力や，それに必要な学習技能を明確にし，さらに，その力や学習技能育成のための支援方法や指導方法を一覧表にまとめる。また，生徒が記入したワークシートや自己評価に教師の評価を書き込み，ポートフォリオの充実を図る。

学習課題の与え方・取り組み方

- ・ 授業で学習した内容を確実に定着するために，効果的な課題の内容を検討したり，取り組み方を検討していく。

効果的な宅習の取り組み方

- ・ 「見せる宅習から，自分に身につく宅習へ」という意識を持たせるために，宅習内容の充実を図る。

提出物の点検活動の在り方

- ・ 未提出者ゼロを目指し，生徒自身が「忘れてはいけない」という意識を持たせるための点検活動の在り方を開発していく。

朝自習の充実

- ・ 本校の朝自習では，1・2年生では「朝の読書」，3年生は「基礎学力の強化」に積極的に取り組ませる方策を探る。

資格取得に対する取り組み方

- ・ これまで学習してきた内容が自分にどれだけ定着し，知識や技能をどのように発揮していけばよいのかを全国共通の問題で生徒自身に考えさせ，目標を持って取り組ませる。

落ち着いた学習ができる学校での学習環境作り

ア 教室，特別教室の設営の在り方

- ・ 生徒自らが積極的に教室設営に関わり，学習する雰囲気を作る教室設営を進めていく。また，全校共通した掲示物の開発に努める。

イ 言語環境の在り方

- ・ 学校全体が気持ちのよい言葉遣いができるよう，教師，生徒が一体となって言語環境をよくするための方策を練る。

ウ ノーチャイムデーの推進

- ・ 自分で時間を確認し，自分から行動する。時を守ることの大切さを考えさせ，教師と共に実践させる。

安定して学習のできる家庭での学習の環境作り

ア リズムのある家庭生活の在り方

- ・ リズムのある家庭生活を作っていくために，1日の生活の流れを本人たちに考えさせ，計画を立て，自分で評価する取組をさせる。

イ 家庭学習の取り組み方

- ・ 家庭学習では何をどう取り組んでいくのかを明確にさせるためにも，家庭学習の取り組み方のマニュアルを作り，それを参考にしながら取り組ませる。

ウ 保護者との連携の在り方

- ・ 保護者との連携を密にし，保護者の協力を得ながら，教師と保護者が一体となった家庭学習を深めていく。

平成
15
年度

テーマ

学ぶ習慣を身につけ，確かな学力を育む指導方法の工夫改善
～ 個に応じた学習指導の充実を通めざして～

仮説

分かる授業を創造していけば

基礎・基本を徹底させていけば

学習を継続させるための組織や運営方法を開発していけば

学校や学級，家庭において学習できる環境を作っていけば

「確かな学力」が身に付くのではないか

研究内容・方法

授業研究班の実践内容

- ・ 「確かな学力」育成の構想図作成
- ・ 指導案形式の工夫
- ・ 各教科における観点別評価と評定算出の方法
- ・ 教科における基礎・基本の確認
- ・ 指導と評価の一体化
- ・ 個に応じた指導方法の工夫・改善

学習環境研究班の実践内容

学習環境の整備

- ・ 朝自習の時間の効果的な活用方法
- ・ 委員会活動の活性化
- ・ 生徒自らが運営するプレテスト

学習習慣の確立

- ・ 宅習の提出率 100%
- ・ 週間活動の在り方
- ・ 宅習と朝自習との効果的な在り方

平成
16
年度

テーマ

学ぶ習慣を身につけ，確かな学力を育む指導方法の工夫改善
～ 個に応じた学習指導の充実をめざして～

仮説

分かる授業を創造していけば

基礎・基本を徹底させていけば

学習を継続させるための組織や運営方法を開発していけば

学校や学級，家庭において学習できる環境を作っていけば

「確かな学力」が身に付くであろう。

研究内容・方法

授業研究

生徒が分かる，理解できる楽しい授業の創造

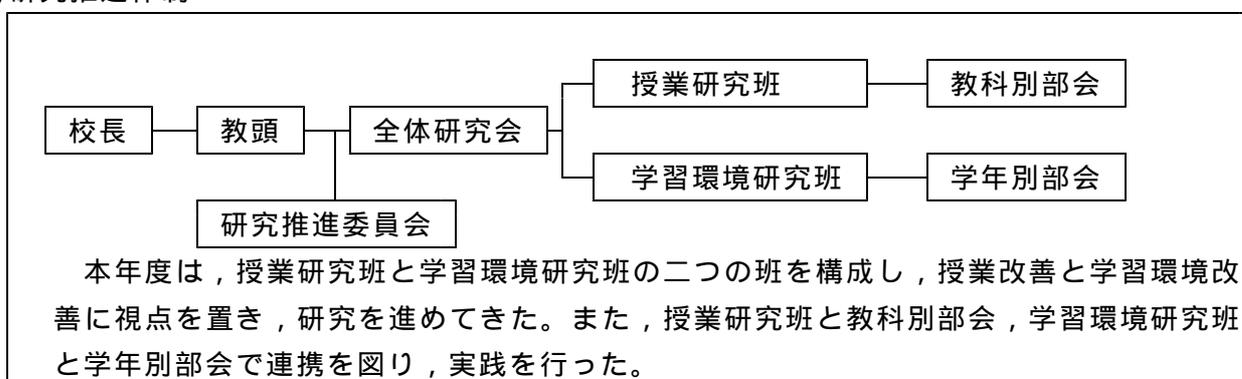
基礎的・基本的内容を定着させる授業

生徒が主体的に取り組む授業

学習環境改善の研究

学級において学習する雰囲気作りの向上
 委員会活動の活性化（係活動も含める）
 宅習への取組
 朝自習への取組
 連携及び情報の公開
 小・中・高等学校との連携の在り方の研究
 保護者との連携の在り方
 研究の情報公開（ホームページ作成）
 評価の研究
 1 単位時間の授業，定期テスト等と評定との関連の研究
 標準学力検査等の評価の捉え方，活用方法
 授業に生かすことができる評定の在り方

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

年 2 回の実態アンケート調査を行っており，生徒の変容が見られ，今後の取り組むべき課題が明確になり，今後の研究内容が焦点化されている。

「平日の 1 日の家庭学習の時間」 前年度 46% 本年度 64%

「授業中自分の意見が発表できる」 前年度 45% 本年度 50%

「休み時間、友だちと学習について教え合っている」 前年度 49% 本年度 57%

「言葉遣いが丁寧だと思う」 前年度 37% 本年度 69%

定期テストの問題作成の際に，数値目標を設定して，授業内容の精選と指導方法の工夫・改善を通して，基礎・基本の指導の徹底を図った。

学年		国	社	数	理	英	音	技家	保体	合計
1 年	目標点	75	70	60	60	65	80	60	60	530
	実点数	70	52	59	58	57	79	50	46	471
2 年	目標点	70	70	60	70	65	70	60	70	535
	実点数	63	71	62	65	78	65	50	42	496
3 年	目標点	75	70	60	75	65	70	60	70	545
	実点数	72	64	53	70	54	66	55	77	511

この結果をから今後の指導方法の工夫・改善を行い，今後に生かしていきたいと考えている。

2 今後の課題

研究指定2年目としてある程度研究内容を精選し、実践してきたが、全教科の共通した実践を積み上げ、成果を上げるまでには至っていない。さらに、研究内容を厳選し、研究を深めていく必要がある。

実態アンケート調査から宿題や宅習の提出状況が100%となるためには、授業の工夫・改善が必要である。生徒が「分かる、理解できる、楽しい」授業の創造、数値目標の設定や基礎的・基本的内容の指導の徹底、指導と評価の一体化をめざしていきたい。

学習環境の充実は、学力向上の基盤であり、強化していく必要がある。生徒が主体的に授業に臨むためには、委員会活動を活性化させ、言語環境を整え、学校全体が学習する雰囲気ができるようにしていきたい。

校内だけの研究にとどまることなく、家庭や地域の小・中・高等学校の連携を強化していき、学力向上へ向けて取り組んでいきたい。

学力把握のための学校としての取組

標準学力検査の実施（年1回）

全学年において国語、社会、数学、理科、英語を年度当初に実施する。

マルチ検査の実施（年1回）

全学年において年度当初に実施している。

学期ごとの定期テストの実施

中間テスト、期末テストで国語、社会、理科、英語を実施する。2学期期末テストでは、音楽、技術家庭、保健体育のテストを実施する。美術では年間を通して行っていない。

単元ごとの単元テストの実施

各教科で計画に従ってその都度行っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

日 時：平成15年5月30日（金）

場 所：延岡市立東海中学校

テーマ：東海地区小・中・高等学校連絡協議会

対 象：小・中・高等学校教諭

日 時：平成15年11月20日（木）

場 所：延岡市立西階中学校

テーマ：第2回学力向上協議会

対 象：小・中・高等学校教諭、保護者

日 時：平成15年4月19日等の参観日

場 所：延岡市立東海中学校

対 象：東海地区小・中・高等学校教諭、保護者

内 容：本校の研究紀要を希望する学校や団体に配布する。